

令和2年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	京都大学、東京外国語大学	タイプ	B
-------	--------------	-----	---

〔評価コメント〕

本事業計画における交流推進は、アフリカ諸国の大学と連携し、文系と理系、研究者と実務者の垣根を超えて、技術と社会のイノベーションを主導しうる人材を養成するものである。その展開にあたっては、長年にわたり構築してきたアフリカ諸国との連携や十分な交流実績が事業の実現可能性を高めている。養成する人材像と教育理念に基づく各レベルの多様な交流プログラムが提示され、日本側とアフリカ諸国側、そして国内外の公的・民間団体との連携により、グローバルな教育プログラムとして発展することが期待できる。また、学生や教員に関する派遣・受入の環境も整備され、内容も充実している。さらに、今後ダブルディグリープログラムへの発展を計画している点も評価できる。

一方で、専門分野が多岐にわたるため、養成する人材像を明確にし、人材育成を評価する際に必要な具体的な視点や指標、質の保証に対するガイドラインをより詳細に検討することが求められる。また、学生の派遣・受入に関する数値目標について、自国にてオンラインで受講する学生数の増加も含め、京都大学及び東京外国語大学全体への波及効果が十分に見込まれるよう、さらなる検討が望まれる。

プラットフォーム構築の事業計画では、SDGs を推進する多様な分野の高度イノベーション人材育成のために、公的・民間団体など国内外の多くの機関との連携が計画されており、特に日本とアフリカ諸国の大学間ネットワークや、アフリカ諸国に関わる日本の大学と他の組織・団体との幅広い教育連携に資するプラットフォームを構築するものとなっている。また、多数の国と大学が参加し、学術分野も広範に跨がるにも関わらず、各学生のレベルや期間、目的に応じたきめ細かな育成交流プログラムを準備している点が評価できる。ともに優れた実績と幅広いネットワークを有する京都大学と東京外国語大学の連携による運営体制は、本事業のプラットフォームとして十分寄与すると認められ、各種ネットワークを形成し、総合的でバランスの取れたプラットフォームを構築することが期待できる。

一方で、持続可能なプラットフォームの構築に向けて、全参加大学共通のプラットフォームと個別のレベルに応じたプラットフォームを明確に整理するとともに、機能分担が形骸化しないための工夫が求められる。また、アフリカ諸国側の大学ネットワークの核を作るため、アフリカ側のカウンターパートとなるネットワークを特定し、両国間の協力体制を構築することが望まれる。

最後に、プラットフォーム構築大学として今回選定された京都大学と東京外国語大学においては、我が国と相手国の大学間交流の促進に向け、戦略的な国内外への情報発信等に真摯に取り組まれることを強く要請する。